

昨年、大椎小学校田んぼの活動にご協力下さった保護者の方から素敵な感想文をいただきました。

谷津田との出会い

平田一穂（千葉市緑区在住）

ゆったりとした街並みと、すぐ近くにまだ自然が残っている環境にひかれて、東京からあすみが丘に移り住んで一年あまり。住み始めて早々から、里山に囲まれた田畑のたたずまいがまるで旅先にいるような気分になれる、小山町の谷津田を時々散歩していました。

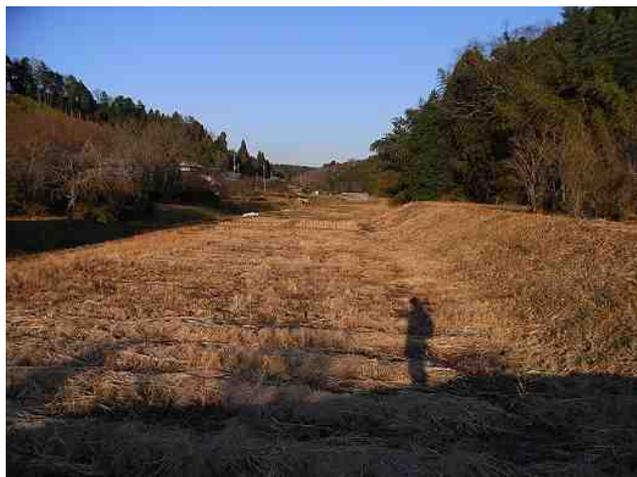
その谷津田を借りて娘が通う大椎小学校、しかも娘の学年が米づくりすると聞き、東京では校庭でバケツで稲作をしているのに何と恵まれているのだろうと思いました。お手伝いの「米づくりボランティア」を募集していたので、早速申し込みました。

まだ肌寒い2、3月、花粉に悩まされながらの田起こしから始まり、草取り、5月末には5年生が膝まで泥んこになってした田植えのお手伝い、その後の草取り、9月末の収穫のお手伝いなど谷津田に直に接することができました。

また草取りに通う度に、YPPの方からその時期に谷津田で見られる動植物のことを教えていただき、想像していた以上にたくさんの珍しい生き物が生息しているのを知りました。それからの散歩は、田んぼのそばまで行き、足を止めて水の中を覗き込み、アカガエルやミズグモなどつい探してしまいます。

特に嬉しかったのは、ホタルのことです。歩いてホタルを見に行けるなんて夢のようで、その時期には夕食後、何度も家族で幻想的な光を楽しみました。自然の宝庫の谷津田がますます好きになりました。

谷津田での農作業は手作業で行うことが多く大変なこと、放って置くと荒れてしまうことなども知り、この最適な谷津田を維持している農家の方、YPPの方に感謝です。これからも谷津田に多少なりとも関わって、散歩をもっともっと楽しいものにしたいと思います。



冬枯れの小山の谷津（2008.12/23）

大椎小学校の米づくりボランティア募集！

2年前にはじまった大椎小学校5年生による稲作体験授業が今年も小山町の田んぼで行われる予定です。

長年耕作が行われていなかったためにアシ原となっていた田んぼを、昨年、ボランティアの方々が開墾し、田んぼに復活させました。その田んぼを5年生が使って今年も米づくりをします。

昨年ご協力いただいた保護者の方や地元ボランティアの方から、子どもたちだけでなく大人も一緒に米づくりを体験したいという声があり、子どもたちの田んぼの隣に保護者をはじめとしたボランティア田んぼを作ろうということになりました。右の図のようにYPP田んぼと学校田んぼにはさまれた区画で現在はアシ原となっています。田んぼが3つつながることで生きものたちに暮らしやすいピオトープになることでしょう。

第1回の作業は2月22日（日）の小山町YPPの活動日に行いたいと思います。詳細は4ページのイベント情報をご覧ください。4月にお子さんが大椎小5年生になる保護者の皆さんのみならず、米づくりを体験してみたい方、学校に協力したいという方など、多くの方々の参加をお待ちしています。参加希望の方はちば環境情報センターまで電話やメールでご連絡ください。田んぼの開墾からはじめる貴重な体験ができますよ！



ツチイナゴ～越冬するバッタ～



成虫 オオオナモミの葉にいた



赤褐色の幼虫



黄緑色の幼虫

日本のバッタ（狭義の）の仲間は冬を卵で過ごしますが、ツチイナゴは成虫で冬を越しますので冬の観察会などでも姿を見ることがあります。茶褐色をしていて翅の先まで 40mm 内外、

50mm 内外もあり、トノサマバッタに匹敵する大きいバッタです。ツチイナゴの特徴は目の下に両脇を黄白色で縁取られた青味がかかった黒い線の模様があります。ちょうど涙を流しているように見えるので俗に「ナミダメ」などと言われています。この「ナミダメ」の模様は幼虫にもあり、すぐツチイナゴの幼虫と分かります。比較的草丈の高い草地にいていろいろな草を食べるようですがクズを特に好むとかオオオナモミを好むと言う記述もあります。確かに下大和田ではクズ、オオオナモミにいた

た写真を撮っています。また、ジュズダマなどイネ科の草にいることも多いように思えます。普通、バッタは秋が繁殖シーズンで、秋に盛んに鳴いてメスを呼びますが、秋はツチイナゴにとっては幼虫の時代で、いろいろな発育段階の幼虫が見られます。晩秋に成虫になったツチイナゴは冬を越した春に繁殖シーズンを迎えます。そして産卵、成虫は6月頃に姿を消します。卵は夏から秋に孵化します。バッタの仲間は不完全変態で卵から直接虫の姿になりますが、脱皮を繰り返し、だんだん大きくなり、成虫の姿に変わって行きます。幼虫は翅も短く、頭デッカチでとても可愛いです。幼虫は鮮やかな黄緑色のもの、赤褐色ものなどとてもきれいですが、

成虫は地味な茶褐色をしています。幼虫時代をすごす秋は緑の植物も、黄褐色に変わる植物もあり、周辺にまぎれる色合いで過ごし、冬を越す成虫になると枯れた草に同化する茶褐色になる・・・自然の妙・巧み・不思議を感じます。体長（翼端まで）は保育社原色日本昆虫図鑑を引用しましたが他の図鑑、その他記述によりまちまちです。中には 50mm～70mm という記述もあります。今度見つけたら計ってみましょう。（網代春男）

ちょっと豆知識

田んぼの広さの単位～畝、反、町～

農家の方に「どれくらいの田んぼをやってらっしゃるのですか？」と質問すると、「1反（たん）5畝（せ）」とか「2町歩（町ぶ）」という答えが返ってきますね。面積というと不動産の広告で見ると坪とか、

ヘーバー（平方メートル）、間取りなら畳と言われればわかるのですが、畝とか反とか聞いてもピンと来ない方が多いことと思います。

1畝（せ）というのは30坪、約100平方メートル（10メートル四方、1アール）です。その上の広さが反（たん）で1反が10畝、約1,000平方メートル（10アール）さらに上の1町（ちょう）が10反で約10,000平方メートル（100メートル四方、1ヘクタール）になります。下大和田だとYPP田んぼ全体の広さが1反1畝、その中のコシヒカリ田んぼ（道路沿いの広い方の田んぼ）が3畝です。「2町ちょうど」という時に「2町歩（ちょうぶ）」とか、「1町3反ちょうど」を「1町3反歩（たんぶ）」というように「歩（ぶ）」を付けます。

坪、畝、反、町は古い長さの単位系、尺貫法による面積の表現です。1951年に「計量法」という法律（商売などに使う単位を定めたもの）ができて、尺貫法を使ってはいけなくなりました。計量法第173条で、計量法に違反すると50万円以下の罰金に処することになっています。でも、昔から使い慣れてきた単位はやはり使いやすく、今でも田んぼや畑の広さにはこの畝、反、町が普通に使われています。米の収穫の多い少ないを比べる時も「反収（たんしゅう）」と言って、1反歩あたりにとれる米の量で比較が行われます。出荷しているようなプロの農家（千葉県）でコシヒカリの反収500～540kg（およそ8～9俵）で、中には反収10俵を超える篤農家もいらっしゃるようです。YPPは？という、昨年は3畝の田んぼで約70kg、反収にすると4俵弱でした。不作だったせいもあるのですが、平均反収5俵くらいでしょうか・・・みなさんもぜひ、この田んぼの広さの単位に慣れて、農家の方と米づくりについて大いに語り合ってください。

（高山邦明）

（参考資料：伊藤幸夫・寒川陽美著「知っておきたい単位の知識200」、サイエンスアイ新書、ソフトバンク2008年刊）



里山たんけんレポート

第108回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年1月4日(日) 晴れ

新春を寿ぐような穏やかな天候に恵まれました。さあ、出発というときにはカワセミがすぐそばの田んぼ脇にやってきて止まるなど幸先良いスタートになりました。ところが林縁にゴミの不法投棄があり、ひとしきりゴミ片付けをする仕儀となりました。気を取り直して歩き始めたところすぐ近くにジョウビタキが出てきました。今冬ここを縄張りとしているオスの個体です。人を恐れず近くで採餌しています。ヘクソカズラの実も啄ばんでいました。相変わらず、カシラダカ、アオジはたくさんいるのですが人の気配ですぐ逃げるのでスコップでじっくり見るのは至難の技です。と、クロジの若いオスが現れました。下流部の沼から折り返し、谷津向側を戻りました。林縁の川沿いにルリビタキのオスが昨年いた所と同じ所にいました。目前にすっきり姿を現してくれてこちらが驚くほどでした。昨年と同じ個体なのでしょうか？ その近くではベニマシコも見ることが出来ました。今日は鳥の専門家、都市鳥研究会の越川重治先生も一緒です。観察しながらいろいろお話を伺いました。お昼休みには、こもれば会議を行い、越川先生から谷津田維持のありようが鳥をはじめ生物に与えている影響や、普通の田んぼと下大和田のような谷津田のたんぼの違いを若い人達に知ってもらうことの重要性や、多様性を失わない谷津の維持管理が必要なことなど様々なお話を伺いました。解散時にはダイサギが田んぼに降り立ちました。冬季はバードウォッチングが中心の観察になりますが充実した一日となりました。

(参加者 大人9名、子ども1名；報告：網代春男)

第92回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

2009年1月18日(日) くもり

早朝の小雨があがり、風もなく穏やかなどんど焼き日和となりました。昨年の米づくりを見守ってくれた4体のかかしを田んぼから運び、広場の真ん中に立て、周りを葉っぱが緑の篠竹で覆って準備完了。恒例の火起こしは子どもたちを中心に誰が早く着けられるか競争です。はじめはうまく回せなかったり、穴から火起こし器が外れてしまったり悪戦苦闘でしたが、煙が出て木が焦げる臭いがしてくると歓声が上がります。湿気が多かったせいか、ちょっと時間がかかりましたが、何とか火が起きてどんど焼きがはじまりました。炎が高く上がり、竹がはじける音が谷津に響き渡ります。棒にマシュマロを付けて焼いて食べたり、サツマイモを焼いたりしました。たき火の周りで紙飛行機大会。広告紙を思い思いに折って飛ばし、滞空時間を競いました。最後まで残って優勝したのは小さい頃に飛行機づくりに熱中したお父さんでした。次に木の棒で作ったボートを水路に流し、子どもたちが棒でボートを押して競争させるゲームをしました。大人の声援を受けて子どもたちは真剣そのものでした。昼過ぎから昔あそびをしました。子どもよりも大人が熱中し、特にべいごま大会は盛り上がりました。大人も子どももしっかり遊んだなぁと感じた一日でした。

(参加者 大人26名、小学生9名、幼児5名 報告：高山邦明)



どんど焼き (撮影 田中正彦)

第40回 小山町 YPP「もちつき」

2009年1月25日(日) 晴れ

自然観察をする予定でしたが、昨年収穫した緑米でもちつきをしようということになり、急遽、昨年の米づくりに協力していただいた皆さんに声をかけて、もちつき大会になりました。かまどで1升半ずつ蒸かして、2臼つきました。「ヨイショ～、ヨイショ～」とみんなのかけ声に合わせて、大人も子どもも全員でにぎやかなもちつきです。大人用の大きな杵を使ってつく元気な小学生もいて、声援が一段と大きくなります。ちょうど地元熊野神社の新年最初のお祭り「おびしゃ」の日で、お祭りの合間をぬって地元の方も様子を見に来て、うれしそうに子どもたちのもちつきを眺めていらっやいました。ついたお餅はあっという間にみんなのお腹へ消えていきました。

(参加者 大人24名、小中学生13名、幼児3名；報告：高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月12日 ウソ3羽が林の中で木の実をついばむ(高山)
- 1月17日 朝冷え込んだ谷津でヤマガラがさえずる(高山)
- 2月1日 アカガエルの卵塊を確認。モズが熱心に他の鳥の鳴きまねをしていた(高山)

下大和田

- 1月2日 チョウゲンボウが高圧線の鉄塔の天辺に止まっていた。しばらくして姿が見えなくなったと思ったら、いきなり目の前を2羽のキジバトを追いかけていった。凄いスピードだがキジバトは一瞬早く林に飛び込み狩りは失敗。チョウゲンボウは林の中までは追いかけて飛び去った。タシギが2羽田んぼから飛び立つのも目撃(網代)。
- 1月11日 ウソの群れがウツギの実を食べていた(高山)
- 1月30日 アカガエルの卵塊を確認(網代)。前日には見られなかった(石橋)、29日の夜に産卵したものと思われる。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第93回 下大和田 YPP「アカガエルの卵塊しらべと林・田んぼの手入れ」

恒例のアカガエル卵塊調査をします。さていくつ見つかるでしょうか？今年数は多そうです。調査のあと、林のアズマネザサを切ったり、田んぼの畦を補修したり、みんなで楽しく作業をします。

日時: 2009年2月15日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第41回 小山町 YPP「田んぼづくり」

地元大椎小学校が今年も米づくり体験をする田んぼと YPP の田んぼにはさまれたアン原を開墾して田んぼに復活させる作業をスタートします。3月にかけて作業をして復田し、今年の学校田んぼに協力いただけるボランティアの皆さんで、子どもたちに負けないように米づくりをしたいと思います。小さなお子さんでも楽しめる作業ですよ！

日時: 2009年2月22日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第110回 下大和田 3月の谷津田観察会とごみ拾い

早春の花が咲き始めます。田んぼではアカガエルの産卵が終わる頃です。冬鳥の観察も今月まででしょう。早春の谷津田を散策します。希望者は午後、田んぼの作業などをします。

日時: 2009年3月1日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 今年もニホンアカガエルの産卵がはじまりました。1月29日から31日にかけて低気圧が太平洋側を通過し、天気が崩れて暖くなった夜に産卵したようです。真冬にしては暖かいとはいえ、あのツルツルの体で夜の田んぼに出てくるのはさぞかし寒いことでしょう。天敵が出現する前の早春にオタマジャクシを早く成長させるためと説明されていますが、毎年毎年ご苦労な話です。と例年と同じ感想を今年も持ちながら無事アカガエルの産卵がはじまったことを喜んでいきます。(高山邦明)